学校支援地域本部事業

自治体名

岩手県普代村

小学校 1校 中学校 1校

震災後の地域の状況・仮設住宅数

中心市街地は被災を免れたが、震災を機に地域との関わりが重要となったことから、学校支援事業に力をいれてい る。 仮設住宅 0地区0戸

~神楽ボランティア活動~

取組概要

実施形態	自治体単独実施	団体等との連携実施	大学との連携実施	(連携している団体等・大学の名称)	
(該当に〇)		0		鵜鳥神楽保存会	
実施主体•	コーディネーター数	ボランティア延べ人数	年間実施日数(回数)	活動場所	
場所等			6	普代中学校図書室	

活動内容

学校支援	学習支援	部活動指導	美化·環境整備	登下校指導	学校行事・その他
					0
学校と地域の 協働学習	復興学習	防災教育	伝統文化·芸能	職業体験・キャリア教育	イベント・行事・その他
	0		0	0	
放課後等支援	学習支援	体験·交流活動	遊び・スポーツ	児童クラブとの連携	その他
家庭教育·	家庭教育講座	親子参加行事	サロン・相談対応	家庭訪問相談	その他
保護者支援					
地域課題に応じた	高齢者支援·世代間交流	心のケア・健康管理	生活再建・地域づくり	地域人材育成	その他
学習·交流	0				

○活動日…平成 25 年 6 月 10 日(月)~14 日(金)及び 21 日(金)の 6 日間

○活動時間・・・14:00~16:00

○活動場所・・・普代中学校図書室

○参加者・・・神楽同好会の父母会を中心としたボランティア ○参加延べ人数 29 名

【活動内容】

中学校からの要望があり、鵜鳥神楽中野流七頭舞の道具(先打、谷地払い、ナギナタ、太刀、キネ、小鳥)をそれ ぞれ修理した。修理した道具の数は 35 点。ボランティアは定規やペンなどを使い、飾りを工夫して上手に仕上げるこ とが出来た。また、9月26日(木)に生徒がその道具を持ち、盛岡肴町商店街で普代村特産品販売体験のPR活動 として神楽を披露した際には、着付けに3名のボランティアが駆けつけお手伝いして下さった。





準備段階

◇被災による課題

被災前より、過疎化が進み地域のコミュニティが分断されつつある中、村内の児童生徒の健全育成に地域の伝統を継承する意味を含め、神楽に取り組んできている。

震災後、地域のコミュニティとつながりの大切さが再確認されると共に、神楽等の地域に根ざす伝統芸能の 重要性も再確認され、原点に返って震災前以上に継承活動を広く展開していく必要性が感じられる。

◇住民等からの要望・必要な取組

地域に伝統として継続されてきた神楽は、震災復興に関してもシンボル的な存在であり、地域ぐるみで取り組み、 伝統を継承し続けて欲しい。

体制づくり・取組の実施

◇協力を呼びかけた団体・関係者、役割分担

- ・鵜鳥神楽保存会 … 神楽の保存・普及に関する事業の計画立案
- ・村教育委員会 … 保存会と学校、商工課との連絡調整
- ・村内小中学校 … 参加児童生徒のスケジュール調整
- ・村農林商工課 … 他市町村での神楽の発表の場の連絡調整

◇取組の充実や課題解決のための工夫

- ・震災後、今まで以上に地域のコミュニティや行政、学校と連携を取って、地域づくりの核としての神楽の位置を明確にした取り組みを行ってきた。
 - ・他の地域の伝統芸能団体とも連携を密にし、更に発展した活動が出来る素地を作り上げた。

成果・課題や今後の展望

◇これまでの取組による成果

地域のコミュニティから自然発生的に生まれた、神楽等の伝統芸能は震災後、その意味の重要性が再確認されてきている。村内だけでなく被災した沿岸各地で神楽を披露することによって、それぞれの地域の住民が、自分たちの力で立ち上がろうという、地域再生の活力を注ぐ源になっている。

また、出演する児童生徒だけではなく、ボランティアとして保護者の方にも道具の修理等を依頼することによって世代を超えて一つのものを作り上げる一体感を持ちながら、活動を広げることが出来ている。

◇課題や今後の展望

震災の風化を防ぐ意味も含め、学校や地域コミュニティ、無形文化財保存団体が連携を取りながら、地域の宝である神楽の伝承を継続していきたい。